



東京YMCA

2011 12月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 135-0016 東京都江東区東陽2-2-20
発行人 廣田光司 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。



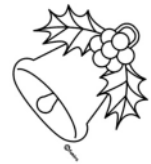
画：渡辺総一氏 「泣く人と共に」

Merry Christmas

「いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、御心に適う人にあれ。」

(ルカによる福音書2章14節)

泣く人と共に



We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

日本キリスト教団浦谷教会 牧師

飯岡 洋介

御子の御降誕を祝うクリスマス、今年も迎えることができました。主イエス・キリストは、この世にあつて恵みと平和を与えて下さいます。そして、弱い立場の人々、くず折れている人々に寄り添い支えて下さる方です。私達が罪あるために人を傷つけた、自分を傷つける者であっても、そうした罪を十字架の上で死をもって贖って(あがなつて)下さいました。そして、復活され、私達に永遠の命の希望を与えて下さいました。その主イエス・キリストの御降誕を今年も祝うことができることは、この上ない喜びです。

しかし、私達の生きているこの世界は依然として試みの世に置かれています。予期しない様々な出来事が起こり、私達を苦しめます。今年3月11日の東日本大震災は壮絶な出来事でした。その時、私は浦谷教会が生み出した保育園にいました。2時46分その時、子ども達は昼寝の時間でした。職員は自分の身を顧みず必死で子ども達に覆いかぶさり守り通しました。そこから全ての時間が止まりました。電気も水道もない日々が1週間続きました。



浦谷保育園の前で。飯岡牧師(左)は、7期にわたるワークキャンプ中、ほぼ毎晩ボランティアのミーティングに来てくださり、ボランティアに感謝の言葉を語り、祈ってくださる方です。

た。そこでは、苦しんでいる人を助けてあげるといふことではなく、自分の隣人として仕える姿勢を大切にすることを確認しました。実際にボランティアは、心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして奉仕したと思います。本当に被災された方々との深い関係を創り上げていったと思えます。泣く人と共に泣き、苦しむ人と共に苦しむ。そして、共に喜びあふ豊かな関係です。そして、その関係は現在も続いています。

こうした状況の時、東京YMCAから「ボランティアを派遣したいので教会に泊めてもらえないか」との申し出がありました。教会には複数の人を泊める場所が無いために浦谷町の役場と交渉して無償で宿泊場所を提供していただきました。そこから石巻市の被災地での活動が始まりました。私は毎晩、ボランティアとのミーティングに参加し、共に語り合いました。

「久しく待ちにし
主よ、とく来りて
み民のなわめを
解き放ちたまえ
主よ主よ、み民を
救わせたまえや」
(讃美歌 94番)
12月になるとイエスの御降誕を祝う讃美歌が街中に流れます。日本全体が主イエス・キリストの降誕をお祝いしているように感じます。

主の誕生を祝う時

すべての人を一つにしつぐださい

「久しく待ちにし主よ、とく来りてみ民のなわめを解き放ちたまえ主よ主よ、み民を救わせたまえや」(讃美歌 94番) 12月になるとイエスの御降誕を祝う讃美歌が街中に流れます。日本全体が主イエス・キリストの降誕をお祝いしているように感じます。イエスの御降誕を祝う讃美歌が街中に流れます。日本全体が主イエス・キリストの降誕をお祝いしているように感じます。イエスの御降誕を祝う讃美歌が街中に流れます。日本全体が主イエス・キリストの降誕をお祝いしているように感じます。

赤三角

▼クリスマス
の季節である。昔の光と音の演出に心が湧き上がるような気持ちを感じたい。クリスマスは、心を尽くし、思いを尽くして奉仕したと、主の誕生を祝う時である。

クリスマスは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

「ソシアスフォーラム」発題要旨

「Y M C Aにおける会員」

副総主事 本田真也

東京Y M C Aの会則前文には、1855年に世界Y M C A大会で採択された「パリ基準」と、東京Y M C A使命が掲げられている。「イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神」に基づいて働きを行うという使命に賛同し、使命達成に関わる者が「会員」である。このことは、今も変わらないY M C Aの原点であり、「パリ基準」の掲載がY M C A加盟基準となっていることの意味は大きい。

1960年以降、Y M C Aが教育事業を拡大していくにつれて、事業運営の継続性、法人格を受けた責任があり、会員は会員活動を担いつつ、常議員会を繋ぎ手として運営を職員と共に担う形となった。2003年の神田会館閉館を境

に、法人としての責任と会員活動を担う者であることを明確にして会員部の設置が行われ、財団法人の中の一事業として位置づけられた。

今年、東京Y M C Aは公益財団法人となったが、公益財団法人にとって会員は、使命達成に関わる側面と「支援者、寄付者」としての側面を合わせ持つこととなった。支援者への説明責任もあり、会員大会も豊かな対話がされる形が望ましい。会員増強等に際して機関紙でも具体的な方策を積み上げられている。

原点を見据えつつ、寄付に合う働きを示し、方策の実施が進み、社会のニーズと使命達成を結びつける存在としての会員活動が根付くことを願う。

「会員活動の方向性」

総主事 廣田光司

1880年、発足当時の東京Y M C Aは、会員のみによって運営されており、財政も会費と寄付金によって維持されていた。その後、広く一般に向けて教育的諸事業が行われるにつれ、事業への参加者は増加したが、会員自体の活動は減少していき、会員組織は事業体としてのY M C Aの働きを支え、これを運営する集団に変容していった。その中で、会員とその組織体のあるべき姿が繰り返し追求されてきた。

今後の方向性としては、職員のみによる組織でもなく、会員のみで運営する草創期を目指すのではなく、「ボランティアと職員の協力による組織とし

て再編成を図ることが何よりも重要」(齋藤総衛)である。特にY M C Aが地域の課題に柔軟に対応していくためには、会員による活動が必須であり、その働きをおして活性化を図る必要がある。そのためには、青少年ボランティアのリーダーシップ養成、Y M C Aの意味を共感し、共有する機会の創出、活動を通して、職員や会員が交わり、Y M C Aの目的を共有する。地域社会で疎外に悩む人々と連携する。他団体との協力、職員自身のY M C A理解の促進が重要である。



分団の様子。20代、80代までの会員が立場を超えて語り合った。



分団の様子。20代、80代までの会員が立場を超えて語り合った。

会員活動の活性化に向けて 会員増強、ユース育成など課題

ソシアスフォーラム

会員部では、会員協議会「ソシアスフォーラム」を、11月26日(土)10時半〜16時、東陽町センターで実施した。「夢と希望に満ちた東京Y M C Aをつくるために」とのテーマのもと、会員36名、スタッフ19名、計55名が集い、熱心に会員活動について語り合った。

開会礼拝の後、本田真也副総主事から「東京Y M C Aにおける会員とは？」と題して発題があり、続いて、廣田光司総主事からは「東京Y M C Aとアピールされた。ま

た、会員の吉田紘子さんからは、11月1日に開催した仮設住宅集会所での「Y W C Aの広場」に「石巻」について報告された。現地の方からは「久しぶりに大きな声で歌い、元気が出た」と、大変喜ばれたとのことであった。その後、越智京子さんのリードにより、ソシアスフォーラム参加者一同で、「歌の広場」を体験、楽しい一時を過ごした。

会員とは？ 永遠の課題

森井利夫

私は1949年以降のY M C Aの会員である。その間、「会員とは何か」という命題はいつの時代でもついて回った。Y M C Aの活動にかかわる者すべて「会員」とし、その中で正会員・準会員・会友、参加会員・維持会員などの区分を設けた時代が続

いた。そうした中で、圧倒的に多数を占めるのが、Y M C Aが提供するプログラムを利用する、消費者としての「会員」であった。かつて、青年成人事業の一翼を担ったレイリーダ協議会で、全国的に連携し、「会員」とよばれる青少年が、単なる事業の対

象からY M C A運動の担い手に変革する途を模索した。しかし「担い手」という概念にも一定のイメージが共有されていたわけではなかった。フアジーなまま推移し、そして挫折した。

今回、しばらくぶりに、かつての「会員協議会」を思い出す。ソシアスフォーラムに参加し若き日の熱い思いが甦った気がする。もつとも感慨深いのは、2003年以降、会員を、Y M C Aの活動を担う者」と限定したことであり、これによって、長年多様性といながら、目的を共有する者のアソシエーション」という本質をあいまいにしてきた過去に終止符を打ち、積極的に会員のアイデンティティの構築をした。本来は、Y M C Aの

目指したのと言えよう。問題はこれからである。運動の専従者であるスタッフのありようも含めて、次のステップへの戦略が確実には未だに必要だが、語りが足りず、臆すること無く意見を言わせていただいています。一人ひとりの声は必ず大切にされ、活かされたい。

ユースの場は用意されている

山手センター職員 池田 麻梨子

ソシアスフォーラムは、会員が主事になったという内容の濃い一日で、あつと経緯の通り、まずは職員が会員になることが求められ、一人のスタッフとして、一人の会員として、どうやらY M C Aの良さや魅力を伝えることが決める重要な席に、後にはそこに飛び込む勇気と想いがあるかどうかということだと思えます。他人事ではなく自分ごととしてY M C Aを見つめる会員でありたいと思つた1日でした。

ソシアスフォーラムは、会員が主事になったという内容の濃い一日で、あつと経緯の通り、まずは職員が会員になることが求められ、一人のスタッフとして、一人の会員として、どうやらY M C Aの良さや魅力を伝えることが決める重要な席に、後にはそこに飛び込む勇気と想いがあるかどうかということだと思えます。他人事ではなく自分ごととしてY M C Aを見つめる会員でありたいと思つた1日でした。

東日本大震災 支援活動

石巻に支援センター設置

文房具・空気清浄機を贈る



新設された「Y M C A石巻支援センター」

東日本大震災発生から9ヶ月が経過し、現地で支援活動を展開する団体数は減少傾向にあります。そんな中でY M C Aのように日常的にボランティアが活躍する場があり、トレーニングされたボランティアリーダーがいる団体は多くなく、大きな期待が寄せられています。今後も引き続き、困難な生活を続けておられる被災地の心に残る支援活動を行い、息の長い支援活動を継続していきたくと考えています。地元の方のご好意に

「Y M C A石巻支援センター」開設
今後の中長期的な支援活動のため、仙台Y M C Aとの協働も視野に入れ、石巻市に新たな拠点を整備しました。このセンターは、石巻市に設置された支援センター、子ども連や高齢者に対する支援、清掃ワーク、子ども連や高齢者に対する支援プログラムなどを展開していく予定です。



贈呈。木村校長と廣田副総主事(右)と石巻市立石巻小学校の空気を清く先生(左)と

石巻市立石巻小学校へ
空気清浄機20台提供
石巻小学校周辺では被災した家屋の解体作業が進み、粉塵が教室にも入り込んでいます。そのため学校から、「児童の健康を守りたい」との依頼があり、東京Y M C Aは、「グリーンフロント」の協働により、シャープ株式会社製業務用空気清浄機20台を提供しました。11月18日には廣田副総主事が石巻小学校を訪問し、引き渡し式を行いました(写真)。

皆から寄贈された文房具に、メッセージを添えて被災地へ贈りました

「文房具を被災地に贈ろうプロジェクト」
被災した子ども達に文房具を贈るための呼びかけをしたところ、たくさんの方から、バラエティーに富んだ文房具をいただきました。11月17日(木)朝から夕方までかけて詰め合わせ作業をし、メッセージを添えたギフトパック約500個を石巻へ送りました。作業実施する予定です。

クリスマス募金
(目標額: 250万円)
東日本大震災復興支援活動募金としてクリスマス募金キャンペーンを行っています。継続的な支援活動のために、ご協力をお願いします。(4面参照) (会員事務局 村上祐介)